

# SID [Zero]

SOCIAL  
INNOVATION  
DIALOGUE  
[ZERO]

REPORT

08.05.2009. @Cafe246

青山の裏通り。窓も天井も開け放し、  
見慣れた日常に対話の場が生まれた。  
対話を通じて起こす、私たちの小さな革命  
その源と未来を探るSID [Zero]のはじまり



[Zero]終了後、参加者のみなさんからたくさんのフィードバックを頂きました。

あの場にいた人があの場で、そしてその後、何を感じたのか。それらを共有することで、さらに意味が共有されたり、新しい意味が創られるのではないかと思います。

## “「自分らしく存在する」

そのことがすでに社会にイノベーションをもたらす源泉。他の誰でもない「自分」が日々の生活や社会の中で感じる「Something Wrong」「こうしたい」に関わり続けようとするところからイノベーションが生まれる” Harumi Yoshimura

私も吉村さんの熱い思いが伝わってきて勇気をもらえました。

最初の30分の吉村さんの話に説得力と本気さを感じた。

吉村さんがやむにやまれぬ思いをもって燈した火が参加した皆の心に伝播して、ダイアログがとても前向きなものになったように思いました。やはり最初

燈す火の熱さと深みがとても大切なのですね。ライターや着火材でポッと点けたものではなく、木と木をじっくりじっくり根気よく擦りあわせ続けてついに着火点に達して点いた種火は簡単には吹き消えない。そんな気がします。

『「弱い絆」でもいいのです』という春美さんの言葉。これも本当に素晴らしい言葉だと思っています。特に私自身、人の関わりの中で（実は結構）疲れてしまいがちのわりに、「絆を強くしていなくてはならない」というようなBeliefが自分のどこかあって、たまに人の輪から離れて一人きりになりたくなることがあります。そんな私のころには、春美さんの優しいこのひとことは、沁み入りました。この自由な思いのなかで、既にいくつもの絆を感じる事ができています。本当にどうもありがとうございました!!

## ワールドカフェ： 探求のテーマ

1 あなたがこれまでに踏み出したことがあるはじめての一步はどんなものでしたか？それは成功したものであったかもしれません。失敗したものであったかもしれません。その一步を踏み出すことができたのは、なにがそのきっかけになったのでしょうか？

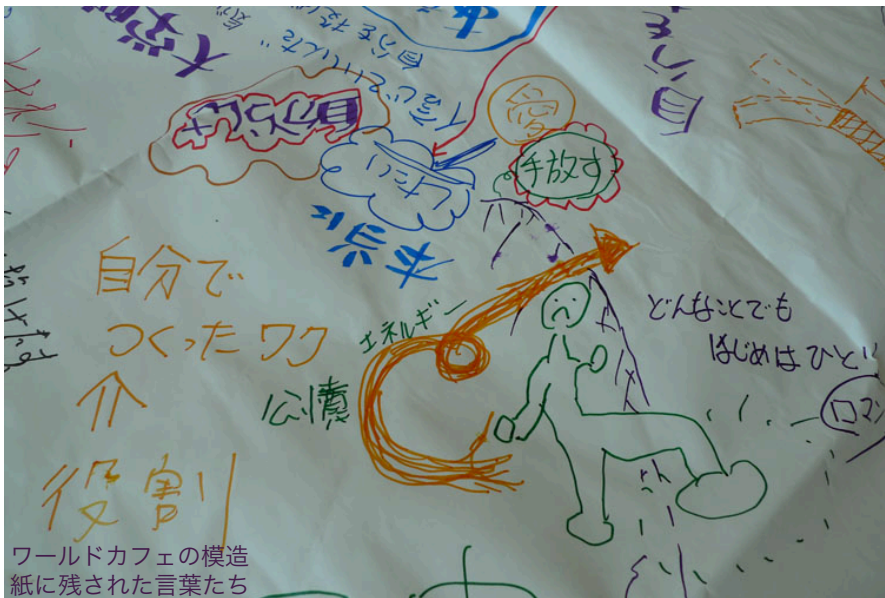
2 私たちのそれぞれの一步から小さな革命を起こすために必要なことはなんでしょうか？

「わたし」にとっての

# 「革命」

「革命」という言葉が出てきました。私はそれを必要以上に大きく捉えていたかもしれません。「なんか変えなきゃ」と。言葉が重いようにも感じましたが、あれぐらいの勢いのある言葉が、他に思いつかないのも事実です。「変革」じゃ、なんか間抜けですすね。

革命 = 分離しつみ進め  
小さな革命 = 自分を変える  
自分を変える = 周囲との関係か  
まわり



ワールドカフェの模造紙に残された言葉たち

## ワールドカフェ・ダイアローグという体験

「ワールドカフェ形式」、初めての体験でしたが、面白かったです。話をするテーマが決まっていたほうが、進行がスムーズで、積極的に発言できました。

「はじめの一步」はすごく良いテーマでしたね。3つのテーブルで話をしましたが、最後までそのテーマの延長で行った感じでした。

テーマとしても、話しやすいものだったし、無理に話さなくてもいいという感覚とお酒の勢いで、割といろいろ言えたような気がします。

私自身、ワールドカフェへの参加は初めてだったので、体験しながら手法を学ばせていただきました。特に印象的だったのは、「春美さんがどうしてこの会をやるか?」という冒頭のくだりでした。その思いに触れさせていただいて、自分のなかで何かが起こって、それを誰かに聞いてもらうなかで探究し、変化がまた起こっていくという過程は、限られた時間のなかでも十分有効だと感じました。

自分の考えを、躊躇することなく、発言させてもらいましたが、

テーマが良かったので、思った以上にみなさんと納得のいくお話しができ、大きな手ごたえを得ることができました。

テーブルのホストを1回体験し、教育に関わるいろんな仕事の人に会った。食べたり飲んだりしながらのワークに初めて参加した。

セッションごとのテーブルの会話のスピードや声の熱の違いを感じた。終わり方がスマートだったので行われた会話はヘビーなものもあったけど、後味さわやかに帰路についた。

3ラウンドを通じての感想ですが、私のようにドブプリ会社の水に浸かってしまっていると、やはり何かアウトプットを求めたくなってしまうというのが本音です。時間の制約など、難しい運営上の制約もありますが、正直なところ物足りなさを感じました。会社の会議でなくても、対話であっても、何かしらの出口へのルートを探そうとするプロセスはあってもいいんじゃないかなという感じですが、きっと、そもそもの場の狙いが、「何らかの固定的な知識をもらって帰るものではない」ということかもしれませんが、これは、決して最後に「今日のまとめ」とか「今日の答え」を出せと要求しているわけではありません。

次々にいろいろな意見が出てスピーディで盛り上がる面白い体験でした。反面、ゆっくりと話を聞いたり、今聞いたことを考える時間が無くテーマについて本当に思ったことを話せているか、自分が急ぎすぎて場に合わせたことを口にしているような感じもしました。でも、このワールドカフェという対話の方法は面白いですね。たくさんの人と話することができるし、何か具体的なアイデアや企画を話し合うのに良さそうなので、可能であれば今やっている自治体の仕事にも部分的に取り入れてみたいと思います。

ある人が発信して、それを誰かがちゃんと受け止めて反応する、というところから自然に基盤を整えて行こうと思ったら、ワールド・カフェ使えそう。今回は始めて、まだよくわからないけどこれからもっと関わっていきたくて興味をそそられた。

<http://tibinonta.blog49.fc2.com/blog-entry-109.html>

<http://tibinonta.blog49.fc2.com/blog-entry-111.html>

## 「革命」→手放す 中で見えてくるもの

「手放す」という言葉が個人的には、とても残ってますね。P.センゲ、「出現する未来」のU理論についてとあるNPOで対話していたときにも同様の言葉ができました。

まず自分を手放すこと。革命というよりは、その中で見えたものこそが自分がアクションするべきもので、それが社会の変化につながっていくのではないかと自分では感じています。





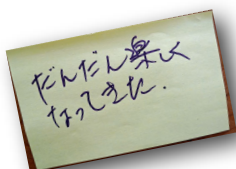
最後の感想で、「イノベーション、小さな革命、それに向かうというベクトルありき」という場のあり方に疑問を投じていた方がいらっやいました。確かに正論かもしれませんが、限られた時間を背負った場のあり方としては、何らかの与件を置かないと立ちゆかないと私は感じています。もちろん、まるまる3日間とかなれば別ですし、次回「第1回」からテーマが何か設定されれば、そのテーマに乗れる人が集まってくるのでしょうけれど。

最後のフロアからの意見を聞いて思ったのは、吉村さんが明確な意図と思いを場の看板に出していること自体が、長く続く活動の基本な気がします。どんな人が集まるうともOKの構造でありながらも主催者が何を意図しているのが明確であることは場が生成していく際の初期契約にもなるので。

あの意見を聞いたあと、すっきりははっきりしたダイアログの名前なんだな、と思い吉村さんの印象、・・・確かな思いと、はっきりした声をもって、ちゃんと立っているようなそんな印象・・・と重なるなあと思いました。

やはり、色々な人々とお話ができるのはいいですね。特に教師はいつも閉鎖的な空間で生きているので他業種の方々との交流は自分を見失わないためにも大切だと感じています。

あるセッションでは仕事への愚痴・過去のつらい体験の紹介、それへの勇気付けの会話になった時があり聞きながら「あれ？こういうこと話す時間なの？」とひいてしまい、話す棒を持つ手が出なかった。また違うセッションではテーマにしばられずに、お互いのその場の思いをシェアすることがあり、その後は時間がきてしまったけど、「もっと話したいな」という雰囲気になった。



## SIDで過ごした時間

本当に素晴らしい宵をどうもありがとうございました！

素敵な空間と時間へのお誘い本当にありがとうございました。

とても価値のある体験をさせていただき、どうもありがとうございました。

集まっていらっやった方の意識がとても高いのにも驚きました。皆さんとても多くのことを書籍や実体験の中で学ばれているなあとというのが正直な所感です。その部分での刺激もたくさん受けました。

皆さん、問題意識の高い人々でしたね。活気があってすごい！って思いました。

国策として教育は重要な問題。どのような子供達を世の中に送り出すのか。少しずつでいいので、声を上げていきたいですね。

吉村さんのストーリーテリングとワールドカフェ、リラックスした雰囲気の中でお話をうかがえて、とてもいい時間を過ごせました。

## 対話の[場]というもの

青山ということで、しかも道路沿いということで、もっと賑やかな所を想像していましたが、穏やかな感じのよい場所で、場所の設定も見事だなと思いました。

まず会場が半屋外でとてもよかったです。天候と気温もよかったです。会場の雰囲気、熱さと、気温の暑さが、絶妙にぴったりとマッチしていて、とても気持ちよかったです。

もし倍の広さであればそんなことは感じなかったかもしれないけど、吉村さんと男性2名の方が入れ替わりながらワークについて説明したりするには少し場所が狭いように感じ、少し圧迫感を感じました。

柔らかな熱気の溢れるとてもハッピーな「場」が形成されていました。

当日は、とても楽しく過ごさせていただきました。吉村さんのお人柄がとても感じられた優しさとアクティブさにあふれた場だったなあと思います。



## 対話から生まれるもの

普段なかなか会えない方々と濃い話しができて、充実した有意義な時間でした。「話す」というあたりまえのことが、こんなにも不足しているのか、と愕然もしました。

たった一つの出会いが、今は随分たくさんの出会いを生んだかと、改めて思いました。

今回のBarを通じて、少し感じられたことですが、こういう場を

「愚痴の吐き捨て場」や「弱音の吐露の場」、ガス抜きの場にはしてほしい

という気持ちがあります。SIDという場がそうではないことを期待します。参加した志を同じくするような人たちが、互いに戦いの名誉の負傷をなめ合う場にはしてほしいなという感じです。



私は、骨の髄から体育会系でやってきた人間なので、「負け惜しみを言うくらいなら、次に勝つために自分の技を黙って磨け」というメンタリティが染みついているのが原因かもしれません。つまり、癒し系ワークショップは今のところ嫌いなんです。古いんですね。しかし、そういう吐露の場を求める時代の空気が濃くなっている現代を、大学生のリサーチなどを通じて強く感じています。やや、年寄りの小言っぽくなってきましたが、私は、今回の場に居合わせることができたおかげで、自分にとっての「(あえて) 始めの一步」のベクトルを改めて思い返し、今までのベクトルの変遷を振り返り、これからのベクトルは？まあ、なるようにしかならないだろうと諦観を決め込んだということが今回の現場での自分の思考の流れでした。時々、こういうことを思い出すのは大切かもしれません。

## つながる、はじめの一步

非常に価値のある一步だったのだと思います。吉村さんのすばらしい勇気に本当に、感動するとともに、こちらにも勇気づけられます。せっかく、勇気をいただいたので、前から気になっていた、ブログを始めてみることにして、早速、感想など書いてみました。

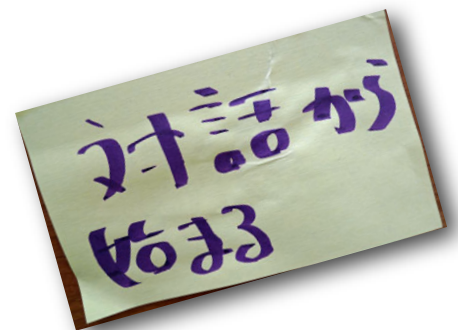
<http://biographywork.blogspot.com/>

自分の中でのアクションということであれば、SID、そして吉村さんとお会いしてから、教育について学びを始めました。アカデミックなところに限りませんが、会社においても、導管(一方通行)のコミュニケーションばかりで「対話」をするということがまだ特殊なものになっていると思います。将来「対話」がなくなる = 遺伝子レベルで対話ができる、そんな教育が実現できると素晴らしいなあと思います。ぼくにとってはこういう学びをはじめたことが小さな革命かもしれないですね。



SOCIAL  
INNOVATION  
DIALOGUE

対話を通じて起こす、  
私たちの小さな革命



Harumi Yoshimura

URL. <http://socialinnovationdialogue.jimdo.com/>  
Email. [social.innovation.dialogue@gmail.com](mailto:social.innovation.dialogue@gmail.com)